

令和6年度 特色ある道徳教育推進校

白子町立白瀉小学校

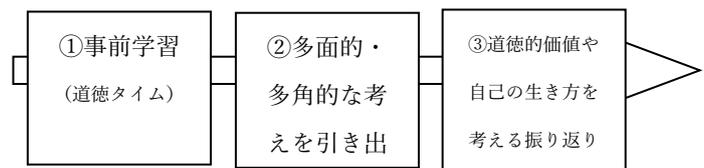
研究主題

他者を思いやり、自他共によりよく生きようとする児童の育成
～多面的・多角的に考え、自己の生き方を見つめる道徳の授業づくりを通して～

<研究の柱1> 多面的・多角的な考えを引き出す学習過程の工夫

○ 学習の流れの工夫

児童の多面的・多角的な考えを引き出すことを目的に、学習の流れを右図のように設定する。

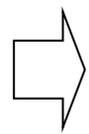


○ 事前学習 (道徳タイム) の設定

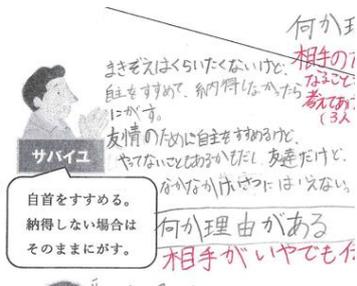
授業前にねらいとする道徳的価値について見通しをもたせたり、児童の興味・関心を捉えたりすることを目的に、毎週水曜日の8時00分から8時15分に、道徳に関する活動を行う「道徳タイム」を設定する。

<道徳タイムの目的>

- ・ 教材文の内容を捉える。
- ・ 児童の興味・関心を捉える。
- ・ 児童の疑問や考えたいことを捉える。
- ・ 道徳的価値を捉える。



本時の発問計画
や授業構成へと
いかしていく



<ワークシート>



<考えの共有>

- 事前学習で登場人物に関する考えをまとめる。(左写真)
- 本時の導入時に事前学習での考えを共有する。(右写真)

<研究の柱2> 多面的・多角的な考えを引き出す発問や手立ての工夫

○ 発問シートの作成・活用

教材研究の際に活用できる発問シートを作成する。児童の実態を捉え、教材のもつ多面性について視覚的に捉えられる内容にする。

『発問シートの使い方』

- ・ 教材名・ねらいとする内容項目を設定する。
- ・ 児童の実態を記入する。
- ・ 中心発問までに押さえなければならないことを考え、記入する。
- ・ 多面的・多角的な考えを引き出すことができる発問を考え、中心発問として記入する。
- ・ 児童の予想される反応や心の動きを考え、児童が各視点に気付かなかったときにどのような補助発問をするかを考え記入する。

発問シート	教材名「たてわりはんせいそう」	学年	3年	1組
内容項目	B 相互理解、寛容			
児童の実態	本学級の児童は、各教科のグループ活動や休憩中に友達と話し合う際、率先して声をかけたり相手の考えを聞いたりする姿が見られる。しかし、感じ方や考え方の違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりする児童が増えてきている。			
ねらい	相手の理解するために大切なことについて考え、自分の考えを相手に伝えるとともに異なる意見も大切にしようとする心情を育てる。			
中心発問までに押さえること	<ul style="list-style-type: none"> ・夕里はいつきの思いを意地で決めたわけではないことを押さえる。 ・夕里のいつきに対する思いを板書する。一方で、いつきの思いとは、ずれが生じていることを示すことで、なぜこのようなことになっているかを考えさせる。 ・夕里がいつきのことを理解できなかった原因を考えさせ、決めて視野が狭くなっていることに気付かせる。 ・夕里自身がいつきの思いをくみ取ろうとしている音読と思いを押しさせる。 ・片方だけの思いしか満たされていない役割演技が行われた場合は、再度学習のテーマをふり返る。そして、次の役割演技はどのようにすると、さらに学習のテーマに迫ることができるかを全体で考える。 			
発問	<p><多面的・多角的な議論を引き出す発問(中心発問)></p> <p>「理解し合う上で大切なこと」とは、どのようなことでしょうか。</p> <p>【問いの形】</p> <p>→そうすると、相手(自分)はどのような気持ちになるのでしょうか。</p> <p>【問い選しやすさ】</p> <p>【問い選しやすさ】</p> <p>【問い選しやすさ】</p>			
児童の反応・補助発問・児童の心の動き・手立て等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけでなく、相手のことも考えること。 → 2人とも気持ちやすらさる。 ・相手の話を最後まで聞くこと。 → 互いの気持ちが通じる。 ・理由を聞くこと。 → 互いに勘違いをせず、けんかにもならない。 ・優しい口調で話すこと。 → 相手も自分も気持ちを伝えやすくなる。 			

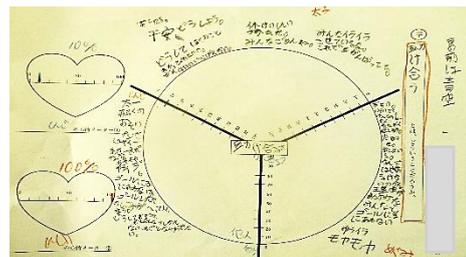
○ 思考の手立ての工夫

<発問シート『たてわりはんせいそう』>

教師の発問に対して、児童がより多面的・多角的に思考できるよう手立てを講じる。思考ツールを活用することによって、自分や他者の考えを可視化したり、役割演技を取り入れることによって思考を動作化したりする。



<役割演技の様子>



<思考ツール『Y字チャート』>

主な成果と課題

- 事前学習を設定し、児童の考え方や興味・関心を教師が捉えた上での発問をしたことで、実態や生活に関連付けた児童の思考へとつなげることができた。
- 道徳的価値や自己の生き方に迫る振り返りについて、令和5～6年度の振り返りのあり方を比較検討した上で、さらに研究を進めていきたい。

小学校6年1組 道徳学習指導案

令和6年11月22日(金)

1 主題名 本当の友情とは B(10) 友情、信頼

2 ねらいと教材名

(1) ねらい

互いを認め、理解し合いながら友情を育んでいこうとする心情を育てる。

(2) 教材名

「ロレンゾの友達」(出典 きみがいちばんひかるとき 光村図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

「友情」とは、友達の間で、相手の立場を尊重して思いやる心である。慰め合ったり、かばい合ったりするだけのものではなく、ときには叱咤激励し合いながら、互いに人間性を高めていこうとする心情であると考え。

本時は、教材「ロレンゾの友達」を活用し、「本当の友情」について考えさせる。友達との接し方について悩んだことを考えさせることで、互いを認め、理解し合いながら友情を育んでいこうとする心情を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、委員会活動や学校行事などにも積極的に取り組み、最高学年としての自覚をもって行動する場面も多く見られるようになってきた。しかし、友達を意識するあまり、些細な友達の言動を気にし過ぎたり、友達の気持ちを考えられずに余計なことを言って友達を傷付けたりして、トラブルになることも多い。

そこで本時では、「相手にとって嫌なことでも、必要があれば伝えることができること」「相手のためになることを考えること」「友達を信じること」が本当の友情には大切であることに気付かせていきたい。そして、互いを認め、理解し合いながら友情を深めていこうとする心情を育てていきたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材には、罪を犯したかもしれないロレンゾに対して、3人の友達が自分の思う最善の方法を示し、話し合う場面がある。それぞれの登場人物のどの考えに自分の考えが近いかを考え、その理由や心情を議論することで、よりよい友達関係について深く考え、友達との信頼関係をもとに行動することの大切さに気付くことができる教材である。教材の活用法として、ロレンゾが無罪だと知らされていない教材文の前半を事前学習で範読する。そこで、自分の意見が3人の友達のどの意見に近い話し合う。その後、本時で教材文の後半を範読することで、本時の中心発問へつなげていく。

4 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点 評価 (☆)
導入 (5)	1 事前学習を振り返り、本時で考える価値を確認する。		○ 実態調査の結果を掲示しておく。
展開 (13)	2 事前学習での意見をもとに、行動の理由を話し合う。 ○だれの考えに近いと思いましたか。その理由はなんですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達が捕まって欲しくないから。 ・ 逃げてても罪が重くなるから。 	○ それぞれの立場の考えを聞くことで、多面的・多角的に考えることができるようにさせる。

<p>(10) 3 教材文の後半の範読を聞いて、話し合う。</p> <p>(10) 4 4人の友情について話し合う。</p> <p>◎ 「ロレンゾの友達」で友情を一番感じる場所はどこだろう。</p>	<p>○ 3人の考えに共通していることはどんなことだろう。</p> <p>○ 3人は、なぜかしの木の下で話し合ったことをロレンゾに言わなかったのだろう。</p> <p>○ 3人は、なぜかしの木の下で話し合ったことをロレンゾに言わなかったのだろう。</p>	<p>・ ロレンゾのために思って考えている。</p> <p>・ ロレンゾにわざわざ言って、嫌な思いをさせたくない。</p> <p>・ 真剣に話し合っていた場面です。友達のために、一生懸命に考えていたからです。</p>	<p>○ 友達のために考えていることを捉えさせる。</p> <p>○ 電子黒板に文章を映して範読する。</p> <p>○ 行動の背景にある理由や児童の心情を聞き取るようにする。</p> <p>☆ 「本当の友情」について自分の考えを表現できたか。</p>
<p>終末 (7)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <p>○ 「本当の友情」とはどういうものだろう。</p>	<p>・ 友達のために真剣に考えること。</p> <p>・ 友達を信じること。</p>	<p>○ 板書を参考にしながら、振り返りを書かせる。</p>

(5) 他の教育活動との関連

学級活動 「最高学年として助け合おう」 国語科「帰り道」

5 授業の様子

(1) 板書



(2) 児童の様子

事前学習であらかじめ自分の考えをまとめておいたことにより、議論する時間が確保され、多面的・多角的な意見に触れることができた。中心発問では、「本当の友情」について自分の納得解を様々な視点から伝え合うことができた。